

とむる報所

2017 第30号

—平成28年度 事業報告—



独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立室戸青少年自然の家

— National MUROTO Youth Outdoor Learning Center —

巻頭言

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家所長

戸 部 信 幸

この度、平成 28 年度に実施した事業の報告「所報むろと」2017（第30号）を刊行いたしましたので、是非とも御高覧いただき、ご意見や御助言を賜りましたら幸いです。

さて、近年、青少年教育に係る新しい課題として①子供の体力低下②問題行動の低年齢化③大学全入時代の到来④子供の貧困、ネット依存等の様々な問題が生じております。

これらの問題に対応するため、青少年自然の家においても集団での宿泊活動などを通して、自然体験や生活体験を提供するなど、青少年の生きる力や豊かな心の育成や意欲を高めることに向けた積極的な取り組みが求められています。

このため、当所においては、緑豊かな自然の中に広がる広大な施設での活動、黒潮の恩恵を受けた海での活動、さらに生きる力を育む主体的判断・行動力等の強化を図る活動プログラムとして、室戸世界ジオパークの地質や地形、自然を生かした室戸の人々の営み体験する「体験！発見！ジオパーク」や、室戸市地域防災計画に係る災害時等における避難場所等の指定を受けたのを契機に、自然災害に伴うライフラインの途絶えた状況を想定した「ジオパーク防災キャンプ」を実施したところであります。

また、「むろとでチャレンジシリーズ」では、親子でのスノーケリング、地元で行われている伝統行事である「土佐室戸鯨舟競漕大会」への子ども鯨舟レースへの参加を取り入れ次世代に継承していくなど地域との関わりを大切に行って参りたいと考えております。

平成 28 年度の事業実施等に当たっては、指導員、ボランティアの皆様には多くの支えをいただき計画を達成することが出来ました。心よりお礼申し上げます。

今後の事業展開に当たり、関係の皆様からいっそうの御指導・御支援を賜りますとともに、忌憚のないご意見をいただけると幸いです。

目 次

平成28年度事業報告

教育事業

●ボランティア養成講座	1
●日本列島ともだちの輪（夏編）	3
●ジオパーク防災キャンプ	7
●体験！発見！ジオパーク	10
●日本列島ともだちの輪（冬編）	13
●ボランティアリーダー自主企画	16
●教員免許状更新講習	19
●ふれあい通学合宿	23

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

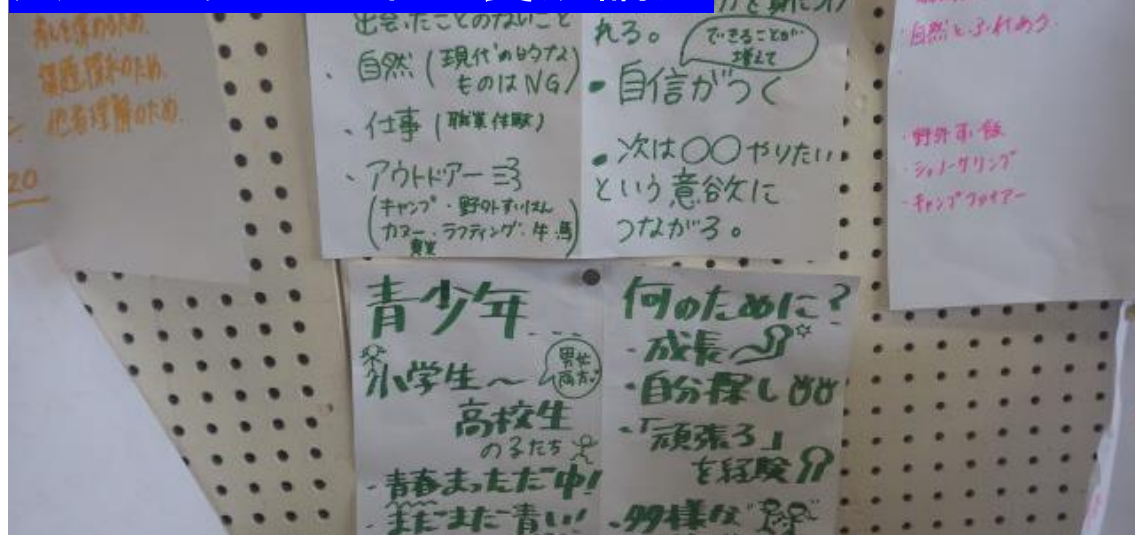
●むろとでチャレンジ①4年生宿泊体験	26
●キッズデイ①海のフシギたんけん隊	28
●むろとでチャレンジ②クジラ・鯨・KUJIRA	30
●室戸の海まるごと体験（四国中央市編）	32
●室戸の海まるごと体験（観音寺編）	34
●キッズデイ②秋の海を親子でスノーケリング！	36
●おもしろ理科工作	38
●キッズデイ④ちょっと早めのクリスマス	40
●キッズデイ⑤親子で体験！～七草採取、正月遊び、おもちつき～	42

管理運営報告	44
--------	----

広報活動	47
------	----

利用実績	48
------	----

法人ボランティア養成講座



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子供たちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義をとおして学ぶことにより、ボランティアとして子供たちとともに活動し、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる青年の育成を図る。

○ 実施期間

平成28年5月14日（土）～15日（日）1泊2日

○ 会場

国立室戸青少年自然の家

○ 対象・参加者数（人数／定員）

当施設の法人ボランティアとして活動する意思のある者、小学校等が実施する自然体験活動を支援する意思のある高校生以上の者（64名／50名）

○ 活動プログラム

5月14日（土）	5月15日（日）
9：00 受付	6：30 起床・洗面・荷物整理・清掃
9：30 開講式・ガイダンス	7：15 朝のつどい
10：30 「青少年教育における体験活動」	7：30 朝食
12：00 昼食	9：15 「自然体験活動の安全管理」
13：00 「ボランティア活動の意義」	12：30 昼食
14：30 自然体験活動の技術（野外炊事）	13：30 「青少年教育施設における現状と運営」
17：30 入浴	14：00 活動の紹介・ボランティア登録の手続きについて
19：00 「青少年施設におけるボランティア」	15：00 退所・所バス送り
21：00 交流会	
22：00 消灯・就寝	

2. 活動の様子

(1日目)

前日の夜、当施設に入り泊まった学生、14日の朝入所した学生、一般、合わせて64名が参加し、ボランティア養成講座が始まった。今回の講座は、「自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成講習」も兼ねており、例年より多数の応募があった。

(2日目)

朝食後、「自然体験活動の安全管理」では、室戸市消防署の方を講師に招き、救命救急法について学んだ。説明のDVDを視聴した後、新規登録を予定している参加者には消防署職員より実技を、在リーダーには高瀬係長よりリスクマネジメントについての講義があった。どの参加者も非常に真剣に取り組んでいる姿が見られた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・いろいろな人と交流できたのがよかった。
- ・新たな発見ばかりで勉強になった。
- ・改めて多くのことを学ぶことができた。
- ・「ボランティアとは」など、普段話さない内容について、みんなと情報共有できてよかった。
- ・この講座は今年で3回目だったが、3回とも違った内容や形式になっていて、新鮮だった。
- ・ボランティアについて、もっと知りたいと思った。
- ・いろいろな活動、考え方があって、今回参加して、とても良い経験、知識を得ることができた。
- ・立派なボランティアリーダーになりたい。
- ・次回から、子供たちと活動できるのを楽しみにしている。
- ・工科大学にも情報を回してほしい。



○ 事業の成果

参加者同士が様々な場面で自分の思いを伝えあうことにより、初めは緊張していた1回生も、積極的に考え、発言できている場面が多く見られた。また、ボランティアリーダーOBが自分の体験や変容を話したことで、ボランティア活動に対する意識が高まり、理解も深まったと思われる。とてもいい雰囲気ですべてを終えることができた。

○ 事業の課題

ボランティアの資質向上のためには、研修を更に重ね、参加者の安全確保や要望に応えられる内容を検討し、計画・実践する必要がある。安全管理やリスクマネジメントについても事業ごとにケースを考えて行動しなければならないことが予想されるので、施設だけの研修ではなく、いろんな研修の機会を紹介することも含めて人材育成につなげたい。また、大学の単位制につながる連携が必要である。

日本列島ともだちの輪（夏編）



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

お互いに異なる地域の子どもたちが交流し、自然環境の違いを体験することで、ともだちの輪を広げ、郷土の良さを再認識するとともに、他者を尊重する気持ちを育むことをねらいとする。

○ 実施期間

平成28年8月17日（水）～20日（土）3泊4日

○ 会 場

国立室戸青少年自然の家

○ 対象・参加者数（人数／定員）

小学校5・6年生、中学校1・2年生（23名／30名）

○ 活動プログラム

8月17日（水）	8月18日（木）	8月19日（金）	8月20日（土）
15:00 高知参加者着 15:20 丹波参加者着 15:40 開講式 16:20 仲間作り 17:45 夕食 18:30 グループ活動 19:30 海のスライドショー 20:10 入浴 21:10 班会 22:00 就寝	7:15 朝のつどい 7:30 朝食 9:00 スノーケリング① 11:30 昼食（弁当） 12:15 スノーケリング② 16:00 塩づくりと野外炊事 19:30 入浴 21:10 班会 22:00 就寝	7:10 朝食 7:45 牟岐少年自然の家へ移動 10:20 牟岐大島着 10:35 スノーケリング① 11:20 昼食（弁当） 12:10 スノーケリング② 13:30 牟岐大島発 15:00 牟岐少年自然の家発 17:00 室戸青少年自然の家着 18:00 お別れパーティー 19:30 キャンドルファイア 20:30 班会・入浴 22:00 消灯	7:15 朝のつどい 7:30 朝食 8:20 退所点検 8:45 感想 アンケート記入 9:30 閉講式 10:00 丹波参加者発 高知参加者発

2. 活動の様子

(1 日目)



高知県の参加者 23 名が元気に到着した後、まもなく丹波参加者を乗せたバスが到着した。緊張で表情が硬い参加者もいれば、笑顔で出迎える参加者もいた。開講式の後の仲間作りでは、ボランティアリーダーが用意した「自己紹介」や「私あなた右左」等のレクリエーションで交流し、参加者の緊張を

ほぐすことができた。

夕食後のグループ活動では、班員同士が協力して問題を解く課題が与えられ、班の絆を深める機会となった。その後の海のライドショーでは、室戸の海と牟岐大島の海について学習した。四国は恵まれた海があるが、海水温が徐々に上がることによるサンゴの白化現象や捨てられた海のゴミや海の汚れ等の環境問題にも触れ、自分が今できることについて考えるきっかけとなった。2 日目の海の活動へとつなげることができた。



(2 日目)

2 日目は室戸の海のスノーケリングと海水からの塩づくり、そしてその塩を使つての野外炊事を実施した。

スノーケリングは、室戸岬新港北と新港内の 2 か所で実施した。バディ同士が互いに体調や用具のチェックをしながら海に入っていた。参加者からは「青い魚（ソラスズメダイ）やチョウチョウウオがいた。」「サンゴがあった。」「魚の群れがいた。」等の感想も聞かれ、室戸の海の豊かさを実感したようだった。

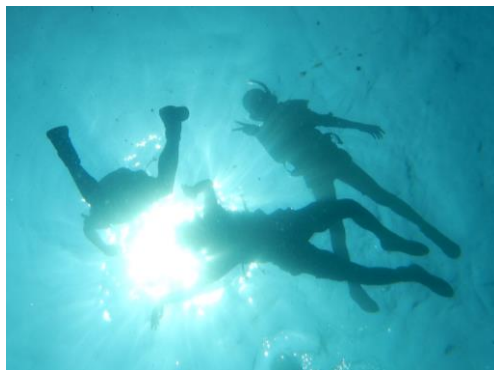


塩づくりでは、各班で濃縮海洋深層水 2ℓ を蒸発させた。海水が蒸発し塩ができる様子を見た参加者は驚きの声を上げ、舐めると「からい」「苦い」と感想を述べていた。この塩を使って野外炊事で「おむすび」「魚の塩焼き」の調理をした。参加者は係を分担し、互いがコミュニケーションをとりながら調理をした。高知と兵庫のそれぞれの環境の違いが参加者がともだちとつながりを感じ、協力することの大切さを実感することができた。事業のねらいとする友達を尊重する姿が見られた活動だった。



(3日目)

3日目は、徳島県牟岐大島にバスと渡船で向かい、スノーケリングを実施した。当日は海水の透明度が高く、渡船から海底を見ることができ、「わぁ。きれい。」と参加者が感動していた。スノーケリングは昼食をはさんで2回実施した。シコロサンゴ、ミドリイシサンゴ等の造礁サンゴやクロホシイシモチ、ソラスズメダイの魚の群れも見られた。「カブトクラゲが虹色に見えた。触るとゼラチンみたいでプルプルでした。」と初めての体験を最終日の感想に生き生きと表現していた。活動の終盤には、各班でもう一度見たいところへ行き、海中ウォッチングを楽しんだ。「でも、サンゴが白くなってきているのでしょ？」とサンゴの白化現象を意識した発言もあり、環境問題を意識しながら活動している参加者も見られた。



食堂でのお別れパーティーでは、調理員さんの心のこもったメニューに、どの班も笑顔で会話を楽しみながら食べていた。食事後のキャンドルファイアではスライドショーや班での話し合いで3日間を振り返り、一人ひとりが嬉しかったことや心に残ったことを伝え、互いを認め合うことができた。明日の別れがさみしいのか涙を流している参加者もいた。参加者の成長を感じることができた瞬間だった。

(4日目)

最終日。宿泊棟の清掃や寝具の片づけを協力して行った後、第1集会室に移動して感想を書いたりアンケートを記入したりした。閉講式の後、法人ボランテ



ィアが作ったお土産(バッジ)をもらい、バスが出る正面広場に移動した。高知県の参加者・法人ボランティア・職員が並び、丹波の参加者を見送った。笑顔で見送る参加者やさみしさのあまり涙を流す参加者もいたが、高知県と兵庫県の参加者が1月6日(金)に再会したときの顔を見ることが楽しみだと感じた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・この4日間は短い間だったけど、あっという間だったと思います。最初は、バスの中で緊張していて「新しい友達はあるかな」「丹波の子と仲良くできるかな」と心配だったけどアイスブレーキングをして仲良くなれてよかったです。野外炊事では、協力することがすごく大事だと思った。班員全員がてきぱきと洗い物を終わらせることができた。そのときに班員が一つになったような気がしました。協力という言葉はすごい力があると思いました。
- ・私は無人島に初めて行くのが一番楽しみで、ワクワクしていました。船に乗っているとき、とても気持ちがよかったです。無人島というだけあって普通の海の何倍もきれいでした。海がすけて見えてゴミもほとんど落ちていませんでした。
- ・僕はこういった行事に参加したのは4年生の時以来です。うまくやっていたのか不安だったけど同じ班の人たちが気軽に声をかけてくれてとてもうれしかったです。他の班の人たちも声をかけてくれてたくさんの友達ができました。たくさんの友達とは冬まで会えないけど、冬にはいっぱい遊んで、もっともっと友達と仲良くなりたいです。

○ 事業の成果

- ・スノーケリング活動を通して、参加者が海の環境問題を考えるきっかけとなった。
- ・室戸と牟岐大島の海を見比べることで四国の海の豊かさを実感することができた。また、高知県と兵庫県のそれぞれの良さについて考えるきっかけとなった。
- ・高知県と兵庫県という遠く離れた地域で育った参加者同士が、班やバディでの活動を通して、協力し合い、互いを尊重する姿が見られた。冬編へとつながる成果が得られた。

○ 事業の課題

- ・事業のねらいを達成するためには丹波少年自然の家との連携は欠かせない。丹波少年自然の家職員との連絡をより密にとる必要がある。
- ・環境問題に目を向ける機会づくりをと思い徳島県の牟岐大島までスノーケリングに出かけたが、移動に時間がかかるため、再検討が必要だと思った。
- ・リピーターの参加者も多いため、活動がワンパターン化しないように時期について検討し、各自が明確なめあてをもって参加できるように啓発する必要がある。

ジオパーク防災キャンプ



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然災害に伴うライフラインの途絶えた中で、行政の支援が始まる 72 時間を生き残るために、電気やガスに頼らないサバイバル体験を行い、仲間と協力したり知恵を出し合ったりすることで不便を快適に変えることを実感する。災害時にも他人任せになったり悲観したりすることなく、自助・共助のできる青少年を育成する。

○ 実施期間

平成 28 年 9 月 17 日（土）～ 19 日（月） 2 泊 3 日

○ 会 場

国立室戸青少年自然の家

津呂地区津波用避難シェルター

○ 対象・参加者数（人数／定員）

小学 5 年生から大学生までの児童・生徒 （21 名／20 名）

○ 活動プログラム

9 月 17 日〔土〕	9 月 18 日〔日〕	9 月 19 日〔月〕
12:00 開講式	7:00 配給食体験	7:00 炊き出し体験
13:30 アイスブレイク ロープワーク 津波シェルターへ避難	8:30 帰宅難民体験	10:30 振り返り
17:30 防災食体験	11:30 カートンドッグ	12:00 昼食
20:00 津波シェルター泊	15:00 ドラム缶風呂体験	13:30 閉講式
	16:00 サバイバル飯炊き	解散
	19:30 停電体験	
	20:30 就寝	

2. 事業の様子

(1日目)



県内外から小学校5年生～高校3年生までの多様な参加者が集まった。仲間づくりを中心としたアイスブレイクを行った後、災害時に役立つロー

ープワークの学習を行った。高校生が積極的に小学生と関わり、ロープの結び方を教え合う姿が見られた。水で戻しただけの防災食は、塩気を含んでいて想像していたよりも随分食べやすいものだったことに参加者は驚いていた。



夜は、今年の9月に完成したばかりの日本初の崖地用津波避難シェルターで宿泊した。また、布団を使わず災害時用アルミシートにくるまって寝た。閉鎖されたトンネル内にアルミのこすれ合う音が響き、なかなか寝付けない参加者もたくさんいたが、スタッフも含めて貴重な体験となった。

(2日目)

台風に刺激された秋雨前線の影響で、夜明け前から断続的な豪雨の一日となった。予定していた帰宅難民体験（徒歩による避難所からの移動）を中止し、バスで自然の家まで移動した。昼食作りのため屋外へ出たところで激しい雷雨となり、建物の中に避難となった。頭上から雷鳴が聞こえ、建物の中央に身を寄せ合って、



ただ雷が通り過ぎるのを待ちながら、現実の天災は到底人の力では敵わないことを実感した。夕方には雷雲も去り、空き缶と牛乳パックを使った炊飯を行った。近年、缶切りを使う機会が著しく減少してきているため、空き缶をかまどにするための加工に苦勞していたが、久しぶりの温かいご飯に、参加者一同笑顔が見られた。

夜は、ブレーカーを落として停電の中で一晩を過ごす体験をした。昼間の疲れもあり、参加者たちは早々に眠りについた。

(3日目)

最終日は夜明けとともに起き出して活動を開始した。冷蔵庫が無くても保存がきく根菜類を中心としたけんちん汁と温かいごはんを作る炊き出し体験を行った。21名それぞれが自分にできることを考え、全員で協力して作り上げた朝食となった。今回、ボランティアのリーダーが参加していないことで、高校生の参加者が自然にリーダーシップをとり、小中学生に声を掛けたり、手を貸したりしながら三日間を過ごしていて、リーダー育成の観点からも有意義な事業だったと思う。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・自助、共助の大切さや、南海トラフ地震の被害予想を知り、大学進学後はより深く防災について考えてみたい。
- ・水で戻すだけのアルファ化米は、おいしくない想像をしていたけど、食べてみると案外おいしく食べられた。
- ・久しぶりに温かい食べ物を口にしたときは、とてもおいしくて、ほっとした。災害時に温かいご飯を作ってあげられるように作り方を覚えておきたい。
- ・今回のキャンプは班やリーダーのない初めての経験だったけど、これまでのキャンプより参加者のみんなと協力することができた。
- ・今回いろいろな人と助け合ったように、本当の災害時にも地域の人とコミュニケーションをとって助け合おうと思った。

○ 事業の成果

小学生から高校生までの幅広い年齢層の参加者が力を合わせて活動することは、お互いに学ぶものが多く、三日間の短い期間ではあったがそれぞれに成長が見られた。また、身近にあるものを災害時に役立てるためには、日頃から扱いに慣れておくことの重要性が実感できた。さらに、冷蔵庫が無くても保存がきく食材がたくさんあることも分かり、家庭に戻って防災の観点から台所等を見ることができるようになったと思われる。

○ 事業の課題

できるだけ現実味のある被災体験をさせようとロールプレイを取り入れながら三日間プログラムを実施したが、参加者の中にはおもしろい体験を求めている者もいて、事業の目的とのずれがあった。

体験！発見！ジオパーク



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸世界ジオパークの地質や地形、自然を生かした室戸の人々の営みを知ることで、ジオパークの自然に興味関心を高めるとともに、自然の偉大さと人間に与える恵みの大きさを体感することをねらいとする。

○ 実施期間

平成28年10月8日（土）～10日（月）2泊3日

○ 会場

国立室戸青少年自然の家

○ 対象・参加者数（人数／定員）

小学校4～6年生 （34名／36名）

○ 活動プログラム

10月8日（土）	10月9日（日）	10月10日（月）
9:30 はりまや橋観光 バスターミナル発	6:00 起床、洗面	6:00 起床、洗面、清掃
11:50 海の駅「とろむ」着	7:15 朝のつどい	退所点検
12:00 受付、昼食	7:30 朝食	7:15 朝のつどい
12:30 開講式、仲間作り	9:00 芋ほり	7:30 朝食
13:00 クルージング	10:30 焼き芋作り	8:30 自然の家発
14:25 ジオパークセンター見学	12:00 昼食（弁当と焼き芋）	9:00 とろむ着・釣り活動
15:15 ジオパークセンター発	13:00 自然の家発	11:20 後片付け、移動
15:45 自然の家着	13:30 海浜センター着	11:50 昼食、ふりかえり
オリエンテーション	13:40 磯探検	13:00 閉講式
17:30 タベのつどい	16:15 海浜センター発	13:15 海浜センター発
17:45 夕食	16:45 自然の家着	15:45 はりまや橋観光
19:15 入浴	17:30 タベのつどい	バスターミナル着
20:15 星空観察	17:45 夕食	
21:00 班会	19:00 釣りの仕掛け作り	
22:00 就寝	20:00 入浴	
	21:00 班会	
	22:00 就寝	

2. 事業の様子

(1 日目)

4 年生 16 人、5 年生 9 人、6 年生 9 人の参加者で教育事業「体験！発見！ジオパーク」はスタートした。最初の活動はジオパーク推進協議会地理専門員の中村有吾氏による室戸岬ミニクルージングだった。室戸岬までの往復 1 時間のクルージングで、室戸ならではの地形である海成段丘や室戸岬灯台、明日の活動のヒントとなる火成岩についての説明を聞いた。波が高く船酔いをする参加者もいたが、海から見る室戸岬の雄大さに感動していたようだ。クルージングの後は室戸世界ジオパークセンターを見学し、ジオパークの楽しみ方について学んだ。



夜は、曇り空で星空観察はできなかったため、2 日目の夜の活動の準備としてロープワークを実施した。ロープやテグスを使って 8 の字結びの技能を習得した。明日の仕掛け作りが楽しみと話している参加者もいた。

(2 日目)

2 日目の朝は雨が降り、予定の時間を遅らせて芋掘りを実施した。昨日のクルージングでの解説を想起させ、崎山台地は 16 万年前、海岸だったことを説明した後、川上農園の芋畑で芋掘りをした。1 株にたくさんのサツマイモがなっているのを見て、「すごい」と感嘆の声を上げている参加者もいた。掘った芋で焼き芋をし、台地の恵みを味わった。



午後は坂本海岸へと移動し、磯探検を実施した。海浜センターからコース図を頼りに磯を歩き、室戸岬へと歩いた。室戸台風の高潮襲来に関する質問やネイチャーゲーム、磯の生物観察、50g の石拾い等の課題を解いていった。磯の生き物を箱メガネで一生懸命探したり、拾った石が 50g を班で悩みながら探したりして磯探検を楽しんだ。50g ぴったりの石とわかった瞬間、班で大きな歓声が上がった。



夜の活動は 3 日目に予定されている釣り活動の仕掛けづくりをした。前日学習した 8 の字結びを使って仕掛けを完成させた。完成した仕掛けを見ながら明日を楽しみにしている参加者もいた。

(3 日目)

最終日は漁業の疑似体験として、釣り活動を行った。釣り方やえさの付け方、触ると危険な魚等の説明の後、それぞれが作った仕掛けを使って釣りを楽しんだ。室戸岬新港は風が強く、仕掛けを絡ませてしまうことがあったが、法人ボランティアに助けられ、参加者は釣りに熱中することができた。オヤビッチャやイスズミ、カゴカキダイ、キタマクラ等の魚が釣

れた。1匹もつれなかった参加者もいたが、釣りをしたことに満足していた。法人ボランティアや班の友だちと助け合いながら楽しく過ごした3日間だった。疲れた中にも満足感が感じられる参加者の表情が印象に残った。ジオパークの魅力と偉大さを体感した事業だった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・初めてクルージングを体験しました。波があってサーフィンみたいにゆらゆらしていました。楽しかったけど酔いかけました。遠くを見ていると元気になり楽しくなってきました。
- ・2日目に磯探検がありました。50gの石を見つける問題で、2つの石のどちらかを決めました。多数決で選ばれた石をはかりにのせてみると50gぴったりでした。僕はガッツポーズをしました。
- ・農園でサツマイモ掘りをしました。私は「どうせあんまり取れないだろう。」と思っていたけど、やってみるとサツマイモが大きくていくら掘っても取れませんでした。私が予想した以上に取れました。
- ・釣れた時は「え？」と思いました。魚を針から外すときに魚が暴れてしまってびっくりしたので放り出しそうになりました。釣れてとてもうれしかったです。
- ・友達と仲良くするのもいいけど、全く知らない人と仲良くなり友達になるのはいいことだなと思いました。たくさんの体験！発見！がありました。

○ 事業の成果

- ・ジオパーク推進協議会専門員や川上農園の協力によりジオパークの地形や自然を生かした人々の営みを学ぶことができた。
- ・クルージングや磯探検、釣りを通して、自然の中にかくれた様々な形や模様に興味を持つ機会が得られ、自然についてより関心を高めることができた。
- ・班活動を通して、協力することや友達を大切にする姿勢が見られた。

○ 事業の課題

- ・この時期には日本ジオパーク全国大会があり、ジオパーク推進協議会の専門員は初日の参加のみだった。実施時期を再検討する必要がある。
- ・仲間にとけこむために時間が必要な参加者もいたため、アイスブレイク等の時間を確保し、仲間づくりの充実を図る必要があった。
- ・この時期は室戸の神祭に当たる。室戸の文化についての理解を深めるためにも神祭を活動プログラムに組み入れていくことを検討したい。

日本列島ともだちの輪（冬編）



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

異なる地域子どもたちが交流し、生活様式や自然環境などの違いを体験するとともに、ともだちの輪を広げ、各地域の良さを発見する。

○ 実施期間

平成29年1月6日（金）～8日（日）2泊3日

○ 会 場

丹波少年自然の家

ハチ高原スキー場

コウノトリの郷公園

○ 対象・参加者数（人数／定員）

小学校5・6年生、中学校1・2年生（夏編の参加者）（20名／23名）

○ 活動プログラム

1月6日（金）	1月7日（土）	1月8日（日）
8:00 集合	9:30 雪遊び	10:00 陶芸体験
8:30 高知出発	11:30 昼食	11:45 感想・アンケート記入
14:00 はじめのつどい	14:00 コウノトリの郷公園見学	12:00 おわりのつどい
14:30 ともだち再会交流ゲーム	19:00 お別れパーティー	12:30 昼食
16:00 丹波産食材を使って みんなで鍋づくり	20:00 感想発表会	13:00 丹波出発
19:00 リーダーや班との交流会	22:00 就寝	18:30 高知着・解散
21:30 就寝		

2. 事業の様子

(1日目)

高知市内からバスで瀬戸大橋を渡り、5時間かけて丹波少年自然の家に着いた。丹波少年自然の家では、丹波の参加者やリーダーたちが出迎えてくれ、夏編以来の再会を果たした。夏編と同じ班に分かれ、ともだち再会交流ゲームを行った。夏編と同じメンバーということもありすぐに打ち解け、長旅の疲れも見せず笑顔で楽しんでた。

丹波産食材を使った鍋づくりでは、班ごとに自由度のある鍋料理で、班ごとに味付けを工夫しながら調理した。調味料を加えながら味見をしたり、食材の切り方を相談したりしながら、班全員の力で作り上げた鍋となり、どの班も美味しくできたと満足していた。

夜のリーダーや班との交流会では、体を動かしたり、大きな声を出したりしながら交流を楽しみ、再会の興奮を高めて一日目を終えた。



(2日目)



楽しみにしていたスキー体験が積雪不足のため実施が難しく、スキー場での雪遊びに変更となった。特に室戸からの参加者は、スキー場の雪に興奮し、雪を集めて投げたり、体やソリを使って斜面を滑ったりした、3日間を通して一番の笑顔が見られた。リーダーたちも工夫し、ソリを使ったリレーを行い、2時間があっという間に過ぎていた。

午後は、コウノトリの郷公園に行き、日本で一度絶滅したコウノトリを再び繁殖させている取り組みについて学習した。鳥インフルエンザの影響で飼育しているコウノトリを見ることができなかったが、すでに野生化してるコウノトリが10羽近く上空を舞っていて、双眼鏡を使った観察を行った。

夜は、お別れパーティーの後、感想発表会を行い、参加者一人一人が自分の言葉で感想やリーダーへの感謝の気持ちを伝えることができた。みな、スキーができない悔しさもあったが、それ以上に友だちとの再会や雪遊びが楽しかったと口にしてた。



(3日目)

陶芸体験では、指導してくれた職人さんのデモンストレーションで、粘土の固まりが手の中でみるみる形を変えていく様子に驚くとともに、自分たちも「あんなふうに作りたい」という意欲を高めていた。陶芸体験が始まると、みな真剣に粘土に向き合って作品づくりに取り組んだ。



あっという間の2泊3日が終わり、解散式の後、班ごとに最後の昼食をとりながら別れを惜しんだ。室戸のバスに乗り込む際には丹波の子どもたち全員が見送ってくれたが、涙ぐむ参加者達もいて、中身の濃い交流ができたことが感じられた。

帰りは、明石大橋を通過して、予定通り高知に帰り保護者に引き渡しを終えた。みな、口々に2泊3日の感想を保護者に伝えている様子を見ることができ、今回の交流が子どもたちにとって、有意義な体験であったのではないかと感じた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・夏編で仲よくなった友だちと、また冬編で会えてすごく嬉しかった。夏編と比べて冬編では、みんなすごく成長していて4ヶ月でこんなに成長するんだなと思いました。
- ・二年続けて参加したけど、夏編も冬編も昨年とは違う内容で楽しかった。
- ・友だちやリーダーがたくさん話しかけてくれたり、遊びを盛り上げてくれたりして楽しく過ごすことができました。

○ 事業の成果

スキー体験は雪不足のため実施できなかったが、全身を使った雪遊びを体験することができ、室戸の子どもたちには満足感を与えることができた。また、夏編で深めた友情を、冬編でさらに深めることができ、心の通う交流になっていた。特に班ごとの鍋づくりは、一緒に作って一緒に食べるというシンプルなプログラムではあるが、しばらく離れていた仲間との距離を縮めるには最適なプログラムであった。

○ 事業の課題

子どもたちや保護者はスキーを体験したいという願いが大きく、スキー体験が実施できなかった残念な気持ちは否めない。実施時期や方法の検討を再考する必要がある。継続していくために、プログラムの工夫や新規プログラムの開発等、互いの施設の連携を今後より深めていく必要がある。

ボランティアリーダー自主企画



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

研修支援や教育事業及び業務においてボランティア活動を行う法人ボランティアを育成する活動のまとめとして、ボランティア自らが企画・準備・運営をする。企画事業を通して、ボランティアとして一つの事業を作り上げるスキルを身につける。

○ 実施期間

平成29年1月14日（土）～15日（日）1泊2日

○ 会場

国立室戸青少年自然の家

○ 対象・参加者数（人数／定員）

小学校4～6年生（38名／30名）、ボランティアリーダー（20名）

○ 活動プログラム

1月14日（土）	1月15日（日）
9：30 はりまや橋観光バスターミナル発	6：30 起床・洗面・清掃
11：50 受付・オリエンテーション	7：30 朝のつどい
12：15 昼食	7：45 朝食
13：00 開会式	8：40 退所点検
13：20 「みんなであそぼーや」	9：00 「考えてあそぼーや」
17：00 タベのつどい	11：30 感想・アンケート記入
17：15 夕食	12：00 昼食
18：30 「工夫してあそぼーや」	13：00 閉会式
20：30 入浴・班会	13：15 退所・自然の家発
21：30 就寝準備	15：45 はりまや橋観光バスターミナル着
22：00 消灯・就寝	

2. 活動の様子

(1 日目)

高知県内の 8 市町村から小学 4～6 年生 38 名が参加して、本年度のボランティアリーダー自主企画事業「あそぼーや」が始まった。到着して昼食だったが、すぐに打ち解けて班のリーダーや仲間とおしゃべりしながら食べる姿が見られた。



開会式の後、「仲間とのコミュニケーション」をねらいとした全体遊びを実施した。自己紹介や新聞紙を使った遊びに続き、体育館に移動して、「漁師と魚」（班対抗鬼ごっこ）やドッチビーを利用したサッカーゲーム等で元気に体を動かしていた。

夜は、「世界中の遊び、新しい遊びに興味を持つきっかけづくり」をねらいとして、ボランティアリーダーが「岩の上のコマ（ドイツ）」「ダックダックグース（アメリカ）」「ホウババンデイル（ブラジル）」を紹介し、実施した。体育館いっぱいのスペースを使って元気に走り回る参加者の姿が見られた。



(2 日目)

まず、体育館でアレンジドッジ「旅人の冒険」をして、普段学校でやっているドッジボールもちょっと工夫することで遊びがより面白くなることを実感した後、グラウンドに移動して、班ごとに遊びを考えたり、アレンジしたりした。基本となる遊びのやり方やルールを変えて実際に自分たちがやって



みて、改良していく姿が見られた。子供達が工夫したりアレンジしたりした遊びは「サバイバルおにドッジ」「ドロあて（ケイドロと的あての合体型）」「コードロボール」「いろいろなお題をクリアしてにげきれ（おにごっこのアレンジ）」「ケイドロスペシャル」「戦闘ドッジ（王様ドッジのアレンジ）」である。

続いて、遊び方を書いた紙を示しながら他の班に説明し、遊びの交換をした。自分たち

が考えた遊びを他の班の友達が楽しそうに行っているのを見ながら、指示やアドバイスをする子供達。寒さにも負けず元気いっぱいグラウンドを走り回る姿が見られ、「もっとやりたい」の声も聞こえた。

昼食、閉会式の後、送りのバスに乗り込んだ。帰りのバスの中は、仲良くなった友達やボランティアリーダーと会話するにぎやかな声があふれていた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

【小学生】

- ・海外の遊びがとっても楽しかった。
- ・いつもと違う遊びや気になる遊びがいっぱいあって、楽しかったしうれしかった。
- ・みんなで遊べて、「仲間っていい」と思った。
- ・想像力を働かせて遊びを考えることができた。
- ・遊びは、考えともっと面白くなることが初めて分かった。
- ・自分で新しいルールを作って遊ぶのは、色々工夫がいるから大変だったけど、班の人とたくさん話せたから楽しかった。

【ボランティアリーダー】

- ・子供達が今までにないくらい楽しんでくれていた。
- ・今回の反省をこれからの活動に活かしていきたい。
- ・自然の家の方針と安全管理の徹底は必要だと思った。
- ・個性豊かな子供達がそろっていて大変だったが、充実した1泊2日だった。

○ 事業の成果

今回の事業でボランティアリーダーたちが大切にしていた「多様な遊びとの出会い」「他者との関わり」は随所に見ることができた。遊びを工夫する際、子供達は予想されるトラブルについても話し合い、ルールに反映していた。また、遊びの交換では、紹介された遊びに分からない点があれば積極的に質問する姿も見られた。けが人を出さず、参加者を満足させて事業を終えたことは一定の成果だと言える。

○ 事業の課題

- ・企画の段階から明確なゴールイメージを持つ
- ・やらせっぱなしにせず、子供達に振り返りをさせたり、その場で必要な支援や評価をしたりする
- ・子供達の力を信じてもっと任せて自由に体験させてみる
- ・事業全体の反省をボランティアリーダーと職員合同でする時間を確保する

教員免許状更新講習「学級指導・学級経営に生かす自然体験活動」



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動指導技術について実習を通して身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

○ 実施期間

平成29年1月21日（土）～22日（日）1泊2日

○ 会場

国立室戸青少年自然の家

○ 対象・参加者数（人数／定員）

平成29年3月31日及び平成30年3月31日に修了確認期限を迎える小・中学校教諭（11名／30名）

○ 活動プログラム

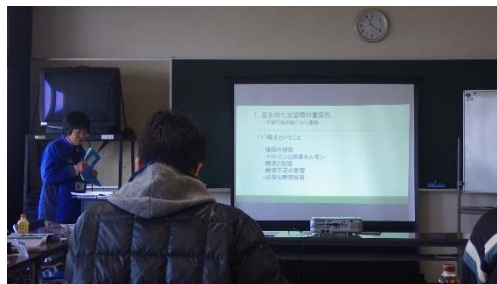
	内容	講師
1/21 （日） 午前	開会行事、オリエンテーション	
	講義「学校教育の現状と課題」	室戸市教育委員会 教育長 谷村 正昭 氏
	講義「子供の意欲・健康に関する生活習慣の重要性」	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職
1/21 （日） 午後	講義「体験活動の意義と学習指導要領」	四国学院大学総合教育研究センター 教授 清水 幸一 氏
	実習「災害時に役立つ野外炊事」	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 他
	講義「安全管理」	国立室戸青少年自然の家 次長
1/22 （日） 午前	演習「学級経営に生かせる体験活動の指導法」	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 他
	講義・実習「ジオパークを生かした自然体験学習の指導法」	室戸ジオパーク推進協議会 地質専門員 白井 孝明 氏
1/22 （日） 午後		国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 他
	履修認定試験	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 他

2. 活動の様子

(1日目)



講義「学校教育の現状と課題」



講義「子供の意欲・健康に関する生活習慣の重要性」



講義「体験活動の意義と学習指導要領」



講義「体験活動の意義と学習指導要領」



災害時に役立つ野外炊事（講義）



災害時に役立つ野外炊事（事前準備）



災害時に役立つ野外炊事（空き缶で炊飯）



災害時に役立つ野外炊事（スライド式ジッパー付き袋でカレー作り）



災害時に役立つ野外炊事（食事の完成）



講義「安全管理」

（2日目）



演習「学級経営に生かせる体験活動の指導法」



「木」のつく漢字探し



フープを使っでの仲間作り



講義・実習「ジオパークを生かした自然体験学習の指導法」



ガイド形式のジオパーク体験（室戸岬）



タービダイトの見学（室戸岬）

3. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

1月実施により平成29年3月31日と平成30年3月31日の修了確認期限の対象者の募集、事業実施となった。

1日目は「学校教育の現状と課題」や「子供の意欲・健康に関する生活習慣の重要性」、「体験活動の意義と学習指導要領」、「安全管理」の講義と「災害時に役立つ野外炊事」の実習を実施した。「災害時に役立つ野外炊事」では、空き缶を使つての炊飯とジップアップ付き袋を使つてのカレー作りをした。炊飯の燃料や水の使用量を制限して実施した。受講者は班で互いに話し合い、工夫し合いながら調理をしていた。

2日目は「学級経営に生かせる体験活動の指導法」や「ジオパークを生かした自然体験学習の指導法」の演習や講義を実施した。「学級経営に生かせる体験活動の指導法」では、体験学習の学習サイクルに沿って、「木」のつく漢字探しやフープを使つてのゲーム等を実施した。「ジオパークを生かした自然体験学習の指導法」では、「室戸ジオパーク」を教材に、ガイド形式による体験活動と小グループでのゲーム形式による体験活動を取り入れた2つのタイプの活動を行った。演習と講義を通して参加者同士のコミュニケーションも深まり、体験活動の効果について体験することができた。

○ 事業の課題

今回の講習は1月に実施したことにより、修了認定期限が平成29年3月31日の参加者は更新手続きが目前だったため、他施設の免許状更新講習を受講していたと考えられる。また、18時間の講習としたが、平成28年の夏季に免許状更新講習を受講した者にとっては6時間または12時間の講習でよいと受講者が少なかったと考えられる。

受講後の「免許状更新講習受講者評価書」の評価を見ると、「総合評価」「よい」が63.6%、「だいたいよい」が36.4%であった。講習内容についての満足度はかなり高い評価を得ることができた。

受講者からは、時間の余裕のある夏休み中の開講を望む声もあるが、当施設の利用状況から考えると繁忙期の開講は難しい。講習月については、更新手続き時期が1月末であることから、更新手続き期間に余裕のある時期の実施が望ましい。グループ9とグループ10が受講対象となる2月に講習を実施したいと考えている。

プログラムについては、雨により小グループでのゲーム形式による体験活動を途中で中止し、事前・事後指導、活動中の留意点や講義についてのふり返りの場を持った。荒天時のプログラムについて再検討の必要がある。

本年度の成果と課題を踏まえ、参加者の要望も取り入れながら充実した講習になるように運営の改善、講習内容の検討を行っていきたい。

ふれあい通学合宿



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

規則正しい生活をするにより、自分で生活と学習のリズムを作れるようになるとともに、新しい環境・人間関係の中でも、積極的にコミュニケーションをとることができる子どもの育成を目指す。

○ 実施期間

平成29年2月19日（日）～25日（土）6泊7日

○ 会 場

国立室戸青少年自然の家

○ 対象・参加者数（人数／定員）

室戸市内の小学校5・6年生（36名／58名）

○ 活動プログラム

2/19（日）	2/20～23（月～木）	2/24（金）	2/25（土）
14:00 自然の家着 開会式 オリエンテーション 15:00 アイスブレイキング 16:00 草スキー 16:40 移動 17:15 夕食 18:15 仲間づくり 20:30 入浴 21:10 班会 22:00 就寝	6:00 起床・洗面 6:50 朝食 7:15 自然の家発 学 校 17:00 タベのつどい 17:15 夕食・洗濯 18:30 宿題 19:30 レクリエーション 20:30 入浴 21:10 班会 22:00 就寝	6:00 起床・洗面 6:50 朝食 7:15 自然の家発 学 校 17:00 タベのつどい 17:15 夕食 18:15 キャンドルファイア 20:30 入浴 21:10 班会 22:00 就寝	6:30 起床・洗面 7:30 朝のつどい 朝食・清掃 退所点検 振り返り 9:50 閉会式・退所

2. 活動の様子

(1 日目)

室戸市内 6 つの小学校から 5・6 年生 36 名が集まり、本年度のふれあい通学合宿が始まった。交流のある学校の児童同士は顔見知りの仲だったが、これから始まる 1 週間への不安と緊張からか、表情が硬い参加者が多かった。しかし、アイスブレイキングや草スキー、夕食、班目標の旗作り、1 週間のテーマソング「僕らのハーモニー」の練習等、班の活動を多く取り入れたことで、緊張感の中にも少しずつ笑みが見られるようになってきた。



(2～5 日目)



規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけるために、1 時間の学習の時間を設けた。学習時間中は静寂の中で集中して学習に取り組み、分からないことがあっても友達や法人ボランティアにすぐ聞くのではなく、自分で教科書を見直したり辞書をひいたりする等、自ら学ぶ習慣づけを重視した。宿題が早く終わった児童には読書や法人ボランティアが作った問題に取り組ませた。また、時間のかかる児童には法人ボランティアや職員が寄り添い、個別に学習支援を行うと共に、宿題全てが終わるまで見届けた。

全員が揃う 21 日、23 日の学習終了後には、法人ボランティアが主体となって企画したレクリエーションを行った。

(6 日目)

最後の夜ということで、食堂でお別れパーティをした後、キャンドルファイアを行った。静粛な雰囲気の中、班ごとに輪を作って一週間を振り返り、自分が成長したと感ずることや印象に残ったことを伝え合った。



翌日に試合があるため、8 人が退所することになった。友達を見送るため正面広場に全員が集まり、別れを惜しみ、名前を呼びながら手を振る姿が見られた。

(7 日目)

朝食後、一週間友達と生活を共にした宿泊棟の清掃を丁寧に行った。暖かく晴れ渡った青空の下、前日振り返った一週間の思い出をみんなの前で発表した。退所時には、親しくなった他校の友達と午後一緒に遊ぶ約束をする姿も見られた。

友達や法人ボランティアとの別れを惜しみながらも、みんな笑顔で満足した表情で帰っていたのが印象的だった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・多い人数でお風呂に入ったり食事をしたりすることが楽しかった。
- ・学校関係なくみんなが関わり合えたのでいいと思う。
- ・自分から行動することができるようになった。
- ・生活リズムが良くなった。
- ・家の住みごごちがいいことと、親のありがたみが分かった。
- ・積極的に話せるようになった。
- ・ボランティアリーダーの考えたレクリエーションが楽しかった。
- ・中学生まで対象範囲を広げてほしい。
- ・自由に遊べる時間がもっとほしかった。
- ・少し決まりが多すぎて、しばられているような感じだった。

○ 事業の成果

室戸市内の学校の大部分が少人数学級なので、限られた友人関係の中で生活をしている児童が多いが、今回の事業を通して子どもたちの新たな交友を生み出すことができた。初めは同じ学校の児童同士でくっついたり男女が分かれたりと、どこかぎこちない関係が見られたが、合宿後半になると積極的に関わろうとする様子や明るい笑顔がいろいろな場面で多く見られた。

毎日1時間の学習時間を設けたが、宿題にかかる時間は個人差が大きい。そこで本年度は学校の図書室で本を借りて来させ、早く終わった児童は静かに読書をしたり、法人ボランティアの作成した問題に取り組んだりして静かに過ごさせた。宿題に2時間以上かかる児童は、21日のレクに参加できなかったが、翌日からは、夕食後の自由時間から自主的に宿題に取りかかるようになり、学習時間後の活動にも参加できるようになった。

昨年度の「プログラムにゆとりがなかった」という反省から、本年度は学習時間後のレクの回数と時間を減らし、代わりに短時間でできる「小刀で鉛筆削り」「流木ストラップ作り」を実施した。1名が喘息で4日目の夜に帰宅したものの、残る35名は一週間規則正しい生活リズムで健康に過ごすことができた。

○ 事業の課題

最終日である土曜日にスポーツの試合等があり、金曜日の夜に保護者が迎えに来て帰宅する児童が8名もいた。平日の夜も練習のため所に帰ってくる時刻が遅くなり、全員そろって学習やレク、振り返り等を行うことが非常に難しい。昨年度の反省から金曜日のキャンドルファイアの中で一週間の振り返りを行ったが、最終日の土曜日に比べると時間も短く、じっくりと自分と向き合い、一週間の成長を感じさせることが困難である。

早寝早起き朝ごはん」が実践でき、参加者からも「生活リズムが良くなった」との感想があったが、学校までの移動時間を考えると、朝食後すぐバスや車に乗り込んで出発しなければならない。キャンドルファイア中に腹痛を訴えた児童は便秘が原因だった。朝食後に5～10分のゆとりを持てるかが課題として残った。

むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

むろとでチャレンジ① 4年生宿泊体験

事業名	むろとでチャレンジ① 4年生宿泊体験		
実施日	平成28年6月11日(土)～12日(日)		
募集対象	小学校4年生	募集人数	40人
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家		
事業目的	5年生で各学校で行われる集団宿泊訓練を前に宿泊体験を行うことで、各校での集団宿泊訓練時にリーダーとして活躍できる人材を育成する。また、高知県内の様々な学校の児童が1泊2日の活動をともにすることで、積極的に仲間づくりをする姿勢を養う。		
活動内容と成果	1日目 仲間づくり スコアオリエンテーリング 天体観測(雨のためダジックアースに変更) 2日目 野外炊事 事業スタートに1時間程度の仲間づくりを取り入れることで、初対面の子どもたちの緊張を解すことができた。 生憎の曇り空であったが、雨に降られることなくスコアオリエンテーリングを実施することができた。地図を囲んで、巡るポイントを話し合う中で、自然と頭が近づき、お互いの心の距離感も縮めている様子が見られた。 野外炊事では、お世話になったボランティアリーダーに美味しいカレーを食べさせようと、役割分担をしながらどの班も笑顔で活動できていた。		

参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	39	0	39	78



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

キッズデイ①海のフシギたんけん隊

事業名	キッズデイ①海のフシギたんけん隊		
実施日	平成28年6月25日(土)～26日(日)		
募集対象	小学1～3年生及びその保護者	募集人数	50人
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家		
事業目的	海の生物に触れることができる「磯観察」や、海辺で手に入れた材料を使う創作活動などを通して、海辺の生き物や環境への関心を高めたり、家族間のふれあいを深めたりできる機会を提供することを目的とする。		
活動内容 と 成果	1日目 磯観察 ビーチコーミング 絵本の読み聞かせ 2日目 海藻のしおりづくり 貝殻アート 天候に恵まれ全日程を終えることができた。 1日目 磯観察では、アオウミウシやトラウツボ等の海洋生物にふれることができ、「もう少し時間がほしい。」という声も聞かれた。 ビーチコーミングでは、貝殻や流木等を拾い、ゴミ収集も行った。 ボランティアリーダーの工夫を凝らした絵本の読み聞かせに参加者は耳を傾けていた。 2日目 海藻のしおりづくりと貝殻アートの工作活動を実施した。海藻のしおりづくりでは、親子で海藻の配置やデザインを考えながら作品づくりをしていた。また、貝殻アートでは、参加者は前日に拾った流木や貝殻を使い、親子で楽しく会話しながら作品づくりをしていた。		

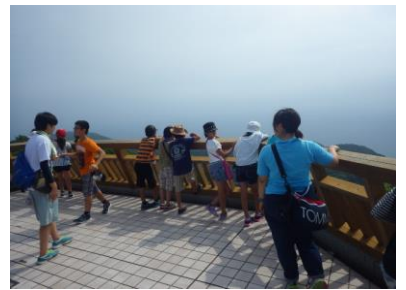
参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	69	0	69	138



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

むろとでチャレンジ②クジラ・鯨・KUJIRA

事業名	むろとでチャレンジ②クジラ・鯨・KUJIRA			
実施日	平成28年7月16日(土)～18日(月)			
募集対象	小学校4・5・6年生	募集人数	34人	
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家			
事業目的	室戸ならではの体験にチャレンジすることで、参加者が自然にふれ、自分の可能性を探る。また、参加者同士のふれあいを深められる機会を提供する。捕鯨文化とともに歩んできた室戸の地で、鯨について学び鯨舟を漕ぐことで、捕鯨と鯨食について考える機会とする。			
活動内容 と 成果	1日目:キラメッセ室戸の鯨館において、展示資料を基にしながらクジラの生態、捕鯨の歴史を学んだ。その後、室戸岬漁港新港へ移動して、翌日のレースに備えて鯨舟の試漕を行った。夜の活動で、翌日の大会に向けて、自分たちの鯨舟に掲げる幟旗をチームごとに作製した。 2日目:第29回土佐室戸鯨舟競漕大会の子ども鯨舟レースに「チーム海」「チーム空」の2チームを編成して出場した。出場4チーム中、3位、4位と結果は振るわなかったが、参加者は力いっぱい櫂を操り鯨船を漕ぎ進めた。会場では各種鯨料理の試食も行われていたが、鯨肉を初めて食べた者も多かった。大会後、バスで移動し、太平洋を一望できる室戸スカイラインジオパーク展望台から最終日のホエールウォッチングの海域を眺めた。 3日目:くろしお号にてホエールウォッチングを行った。外海はうねりも高く、船酔いに苦しんだ参加者もみられたが、イルカの群れに遭遇したり、ハナゴンドウクジラの潮吹きを観察することができた。 鯨と捕鯨の文化に触れることのできた3日間であった。大阪府からの2名以外は高知県内の参加者であったが、初めて鯨肉を食べた者が多くみられたことに、土佐の、また日本の鯨食文化が失われつつあることを痛感した。鯨を学び、体験するプログラムであったが、「夏休みの自由研究でクジラをテーマにしたい」との声が多く聞かれた。プログラムで用いた学習シートやしおりもそれを意識したつくりとした。鯨舟競漕大会の時間進行が流動的で空き時間の対応に苦慮したが、次年度は改善できると考えている。			
参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	38	0	38	114



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

室戸の海まるごと体験(四国中央市編)

事業名	室戸の海まるごと体験(四国中央市編)			
実施日	平成28年8月25日(木)～27日(土)			
募集対象	小学校5・6年生	募集人数	40人	
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家			
事業目的	日頃穏やかな瀬戸内海で生活をしている児童が、室戸青少年自然の家が提供する海の活動を体験する。それにより、自然に親しむ活動の楽しさを感じるとともに、自然の力の大きさ雄大さを感じることができ、また、参加者相互の交流、新たな仲間との出会いから、協調性を高めることを目的とする。			
活動内容 と 成果	1日目 坂本海岸でビーチコーミングを行い、拾い集めた貝殻や流木、シーグラスなどを自然の家に持ち帰って3日間の思い出の写真を入れるためのフォトフレーム作りを行った。 2日目 午前中のスノーケリングでは初めて海で泳ぐ子どももいて、スノーケリングセットを着用して水中で呼吸する練習をしたり、水にリラックスして浮かんだりする練習をしてから実施した。午後のオーシャンカヤックでは、三人組で協力し艇を運んだり操船したりすることを通して仲間づくりを行った。 3日目 室戸世界ジオパークセンターを見学して室戸の大地の特徴を学んだ後、実際の室戸岬に出掛けて目に見える風景から大地の成り立ちに想像を膨らませた。また、亜熱帯性の海浜植物の観察を行い、自分たちの住む瀬戸内海地方との違いを考えることで、黒潮のもつ特徴を実感した。 2泊3日の短い期間の中で、室戸の海の美しさやおもしろさを十分に実感させることのできる事業であったと思う。今回、スノーケリングとカヤックを天候の良い日に実施できるようフレキシブルな日程にしておいたことが功を奏した。			
参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	38	0	38	76



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

室戸の海まるごと体験（観音寺市編）

事業名	室戸の海まるごと体験（観音寺市編）			
実施日	平成28年8月22日（月）～24日（水）			
募集対象	小学校5・6年生	募集人数	40人	
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家			
事業目的	日頃穏やかな瀬戸内海で生活をしている児童が、室戸青少年自然の家が提供する海の活動を体験する。それにより、自然に親しむ活動の楽しさを感じるとともに、自然の力の大きさ雄大さを感じることができ、また、参加者相互の交流、新たな仲間との出会いから、協調性を高めることを目的とする。			
活動内容 と 成果	悪天候による海況の悪化のため、プログラムを入れ替えて実施した。 1日目 坂本海岸でビーチコーミングを行い、拾い集めた貝殻や流木、シーグラスなどを自然の家に持ち帰って3日間の思い出の写真を入れるためのフォトフレーム作りを行った。 2日目 午前中のオーシャンカヤックでは、三人組で協力し艇を運んだり操船したりすることを通して仲間づくりを行った。午後は室戸世界ジオパークセンターを見学して室戸の大地の特徴を学んだ後、実際の室戸岬に出掛けて目に見える風景から大地の成り立ちに想像を膨らませた。また、亜熱帯性の海浜植物の観察を行い、自分たちの住む瀬戸内海地方との違いを考えることで、黒潮のもつ特徴を実感した。 3日目 スノーケリングでは初めて海で泳ぐ子どももいて、スノーケリングセットを着用して水中で呼吸する練習をしたり、水にリラックスして浮かんだりする練習をしてから実施した。 2泊3日の短い期間の中で、室戸の海の実しさやおもしろさを十分に実感させることのできる事業であったと思う。今回、スノーケリングとカヤックを天候の良い日に実施できるようフレキシブルな日程にしておいたことが功を奏した。 参加者からは「初めてやる活動ばかりだがとても楽しかった」「自然が豊かだった」「自然や海のたいせつさがわかった」などの感想が得られた。			
参加者数	宿泊者数 （A：実人数）	日帰り参加者数 （B：実人数）	参加者数 （A+B）	総参加者数 （稼働数）
	26	0	26	52



うと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

キッズデイ②秋の海を親子でスノーケリング！

事業名	キッズデイ②秋の海を親子でスノーケリング！		
実施日	平成28年9月24日(土)～25日(日)		
募集対象	小学校1～3年生とその保護者	募集人数	10家族30人程度
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家		
事業目的	海の生物を自分の目で観察することができる「スノーケリング」を通して、海辺の生き物や環境への関心を高めたり、家族間のふれあいを深めたりできる機会を提供することを目的とする。		
活動内容 と 成果	悪天候による海況の悪化のため、活動時間を短縮して実施した。 1日目 海浜活動センターでスノーケリングの概略や道具の使い方を説明したのち、坂本海岸で水慣れ体験とスノーケリングの初歩を実施した。 2日目 新港北での活動をとろむ港内に変更し、大雨の合間にごく短時間入水した。入水までの待ち時間の間、艇庫前に水槽を設置してマスククリア・スノーケリングクリアの復習を行った。室戸ドルフィンセンターへ移動し、シャワー、更衣後にハロールドルフィンプログラムを体験した。 72組215名の申し込みがあり、人気のある企画となった。株式会社タバタ様の協賛による「お土産」と使い方まで踏み込んだスノーケル活動や室戸ドルフィンセンターでのハロールドルフィンといった内容が訴求したものとする。事業実施にあたり協賛先の株式会社タバタからは小学生参加者用のマスクスノーケルの廉価提供と販促グッズ(防水ポーチ)の提供、ドルフィンセンターからは着替えシャワーの更衣室利用とハロールドルフィンプログラムの割引(団体料金よりさらに割引)を得られた。		

参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	25	0	25	50

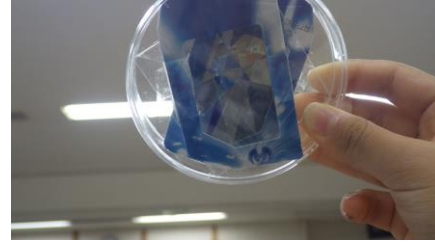


むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

おもしろ理科工作

事業名	おもしろ理科工作		
実施日	平成28年11月26日(土)～27日(日)		
募集対象	小4～5・6年生	募集人数	40人
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家		
事業目的	子どもたちの理科離れが問題となって久しいが、現実には子どもの理科の成績が世界的に見ても高いにも関わらず、理科を楽しんでいる子どもが少ないことに問題がある。目に見えない自然の法則を机上の空論ではなく、実体験を通して考える活動を通して子どもたちに理科の楽しさを実感させることで、子どもが理科を好きになるきっかけ作りとしたい。		
活動内容 と 成果	1日目 浮沈子、ピコピコカプセル、ガリガリトンボの製作をした。それぞれ作った物の動きを観察しながら、その原理について考えた。夜は天体観測を計画していたが、曇天のため中止となった。 2日目 ピンホールカメラ、偏光観察装置を製作した。特にピンホールカメラの製作には苦労していたが、単純な仕組みの箱の中に写る像を見て感嘆の声があがった。光については原理が難しく理解ができない部分が多かったようだが、光の減少に対する興味を持っていた。		

参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	35	0	35	70



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

キッズデイ④「ちょっと早めのクリスマス」

事業名	キッズデイ④「ちょっと早めのクリスマス」			
実施日	平成28年12月10日(土)～11日(日)			
募集対象	小学1～3年生とその保護者・家族	募集人数	約60人	
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家			
事業目的	自然の材料を使う創作活動や、参加者が日常生活から離れた場所で自然散策をすることで、自然への関心を高めること、また、親子が分かれて創作活動を行うことでお互いの作品を認め合ったり、夜ゆったりと過ごしたりして、親子の絆を深めることを目的とする。			
活動内容 と 成果	1日目 開会式、オリエンテーションの後、所内を散策しながら翌日のリースやミニツリーの材料となる葉や木の実を採集した。同時に子供たちの大好きな草スキー、おもしろ自転車、冒険遊びの施設を開放し、親子で楽しく遊んでもらった。午後3時半から5時までは自由時間とし、部屋でゆったりと過ごしたり、中庭の遊具で遊んだりする時間にあてた。夕食後は法人ボランティア主催の「キャンドルナイト」が行われた。自由参加だったが多くの家族がつどいの広間に集まり、レクリエーションで体を動かしたり、1本のろうそくの明かりを家族で見つめたりして、他の家族と交流し、また家族の絆を深める時間を持つことができた。 親子で過ごす時間がゆったりと流れ、お父さんやお母さんと一緒に遊ぶ子供たちの楽しそうな笑顔が見られた。 2日目 朝のつどい、朝食の後、8時45分から退所点検を受けてもらった。リピーターが多い事業であるしオリエンテーションで特に強調して伝えていたので、寝具のたたみ直しも少なかった。自主点検にしなくても短時間で終わらせることができ、予定通り制作活動に移ることができた。 第1集会室で講師の2人を紹介し、リースとミニツリーに分かれて1人1人が思い思いの作品を作った。リース作りの方は壁掛けタイプとアレンジメントがあって、毎年参加しているリピーターにも目新しい作品となったが、途中で「変更したい」という希望に対応しなければならなかった。ミニツリーは就学前の幼児への支援が必要だったが、5人の法人ボランティアがよく目を配り、1人ひとりが自分の作品を仕上げる事ができた。 また、昨年は作品作りが終わって参加者が集会室から退出し、片付けに残る人が少なかったが、今年はあらかじめ声掛けをしったり遊びに行った子供たちに放送で呼びかけたりして、みんなで片付けに取り掛かり、短時間で済ませることができた。			
参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	71	1	72	143



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

キッズデイ⑤「親子で体験！～七草採集、正月遊び、おもちつき～」

事業名	キッズデイ⑤「親子で体験！～七草採集、正月遊び、おもちつき～」			
実施日	平成29年1月7日(土)～8日(日)			
募集対象	小学1～4年生とその保護者・家族	募集人数	約40人	
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家			
事業目的	親子で季節の行事活動を体験することで、親子間の関係を深め、文化に対する関心を深めることを目的とする。			
活動内容 と 成果	1日目 高知県立牧野植物園の協力をいただき、園内で七草採集をした。初めに、講師の方から七草についての説明があり、「雑草」と「野草」の違いなど、興味深々に聞いている姿が印象的であった。説明後には、普段立ち入ることができない場所で採集を行った。園内にある野草の特徴等を聞き、普段、意識しないと違いや特徴を知ることがないため、特別な機会になった。その後、所に向かい、食事をした後に開会式、オリエンテーションを行った。その後は、ボランティアリーダーを中心とした正月遊びを自由参加形式で実施した。正月遊びの内容としては、かるた、福笑い、コマ、スゴロクであった。主に家族で遊びを楽しむ様子が伺われたが、同年代の子ども同士で遊びを始めた、多くの笑顔がみられた。 2日目 正月休み後であったため、ゆったりと家族で過ごしていただくことを前提とし、活動開始時間を10時に設定した。予定時間通り、おもちつきに移ることができた。近年、おもちつきの安全管理などが懸念され中止判断をしている自治体も少なくない。参加者に安心して実施してもらうため、また、おもちつきの文化を途絶えさせないために安全管理の徹底を行った(例:使用する道具の準備については熱湯消毒をする、直接おもちに触らないように、手袋の着用や箸を使用する等)。保護者の理解に加え、3人の法人ボランティアがよく目配りしてもらえたことで、安全な活動ができた。 また、おもちつきは3班に分かれて、ローテーションで実施した。同時に正月遊びが自由参加でできる場を設けたため、待ち惚けになることはなかった。自分でついたおもちを丸め、食べる体験であったが、できたてのおもちを食べ、多くの笑顔がみられた。			
参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	40	0	40	80



管理運営報告

1. 職員の研修・講習等

- 「新任職員研修」 平成 28 年 4 月 5 日～6 日
(新規採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象/ 8 名参加)
 - ・ 所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明、実践を重視した基礎的研修
- 「指導系職員研修Ⅰ」 平成 28 年 4 月 13 日 (海の活動指導職員対象/ 8 名参加)
 - ・ 海の活動での役割と使用方法を実際に体験して学ぶもの
- 「指導系職員研修Ⅱ」 平成 28 年 4 月 15 日 (海の活動指導職員対象/ 7 名参加)
 - ・ 研修指導員を招いてのスノーケリング等海の活動講習
- 「指導系職員研修Ⅲ」 平成 28 年 4 月 22 日 (海の活動指導職員対象/ 6 名参加)
 - ・ シーカヤック、磯観察を実際に行いながら、技能と指導方法を学ぶもの
- 「救急救命・AED講習会」 平成 28 年 6 月 27 日実施 (13 名参加)
平成 28 年 11 月 16 日実施
平成 28 年 11 月 21 日実施
 - ・ 室戸市消防署職員による講義及び実践練習
- 「職員研修」 平成 28 年 7 月～平成 29 年 2 月
 - ・ 南海トラフ地震及び避難所運営について (15 名参加)
 - ・ 室戸青少年自然の家これからについて～利用者にとって魅力的な施設とは～ (19 名参加)
 - ・ 職員安否確認訓練～緊急連絡網による安否確認～ (21 名参加)
 - ・ 利用者増を図るための事業に関するワークショップ (18 名参加)
 - ・ 接遇研修『あったか室戸のおもてなし』(室戸ジオパーク推進協議会の研修に参加) (2 名参加)
 - ・ リスクマネジメント講習 (6 名参加)



2. 平成28年度国立室戸青少年自然の家施設業務運営委員会

日 時 平成28年12月1日(木) 14時～16時

場 所 国立室戸青少年自然の家 第1集会室

出席者 阿部淳子(青山代理)、刈谷好孝(亀川代理)、小松幹侍(谷村代理)、
(敬称略) 小柳和代(片桐代理)、酒井哲雄、清水幸一、杉村高晴、田村千賀、
時久恵子(常石代理)、戸田浩、野島利和、藤田真一、松岡和也、森克仁、
依光香代子、脇口宏 の各委員 計16名
(欠席者：上城戸裕子委員)

日 程 1. 開会
2. 所長挨拶
3. 委員紹介
4. 職員紹介
5. 議長選出
6. 議事
7. 質疑応答
8. 所長お礼のことば
9. 閉会

3. 栄典関係

当施設研修指導員の松島恒雄氏が、当施設の開所期から現在に至るまで40年の長きにわたり、事業の指導や助言、野外炊事や竹細工等さまざまな体験活動の指導を通して青少年の健全育成に尽力され、社会教育の振興に多大な貢献をされた功績により、平成28年11月10日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受けられた。

●松島恒雄氏 略歴

昭和51年 国立室戸青少年自然の家ボランティア指導員

平成13年 独立行政法人国立青少年自然の家国立室戸青少年自然の家ボランティア指導員

平成18年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員

平成22年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家研修指導員

●当施設における主な活動

海洋体験活動船「くろしお」の操船及び指導、地引き網、野外炊事や竹トンボ等の竹細工を中心としたクラフト指導、施設開放事業「くろしお祭り」等の事業における活動指導

4. 施設整備（主なもの）

○メインホール棟の天井落下防止対策工事の実施

主に室内活動で活用されているなかよし広間のあるメインホール棟について、天井落下防止対策工事を実施した。あわせて照明のＬＥＤ化も行い、利用者がより明るい広間で活動ができるようになった。

○くろしお棟（宿泊棟）の改修

宿泊室のリノベーションを以下のとおり実施した。このことにより、利用者がより快適に宿泊できるようになった。

- ・ 壁紙、床板、廊下の全面張り替え
- ・ 畳の交換
- ・ 全トイレの洋式化
- ・ 入口扉の隙間を解消して害虫侵入防止
- ・ 窓への飛散防止シール貼付、避難経路の階段拡張整備による防災対策
- ・ ベッドルーム照明のＬＥＤ化

○第１集会室の照明ＬＥＤ化

第１集会室の照明をＬＥＤ化することにより、当施設で最も広い研修室の快適な研修環境の整備を行った。

5. 設備備品（主なもの）

○携帯無線機の更新

平成３２年度中に予定されている通信電波のデジタル化に伴い、既存のアナログ専用機種は通信対応できなくなるため、当施設で使用している携帯無線機１３台について、アナログ/デジタル共に対応可能な機種に更新を行った。

○厨房のプレハブ冷凍庫の更新

経年劣化の進んでいたプレハブ冷凍庫の更新を行った。

広 報 活 動

平成 28 年度は、広報活動全体を見直した。施設の利用促進にとどまらず、「体験の風をおこそう」の理念のもと、体験活動の重要性をアピールするようにした。Web ページのリニューアルを行い、また、Facebook ページの更新を 1 週間に一度行うようにした結果、多くのフォロワーを獲得できた。

実施日	イベント名	会 場	ブースでの 体験者数
7 月 17 日	室戸ふるさとマルシェ	海の駅とろむ	253
10 月 15 日	青少年交流の家フェスティバル	国立大洲青少年交流の家	626
10 月 23 日	甫喜ヶ峰フェスティバル	甫喜ヶ峰森林公園	62
11 月 3 日	高知大学物部キャンパス公開イベント	高知大学物部キャンパス	2, 230
11 月 12 日	淡路うずしおフェスティバル	国立淡路青少年交流の家	397
11 月 19 日	高知オーガニックマーケット	高知県立池公園	400
11 月 20 日	ヤ・シィの秋まつり	ヤ・シィパーク	555
1 月 22 日	大篠小学校ふれあい文化祭	南国市立大篠小学校	215
1 月 22 日	高知のおさかな祭り	高知市中央公園	1, 049
1 月 29 日	室戸市観光開き	室戸岬観光案内所	39
2 月 19 日	生物多様性イベントふるさとの命をつなぐ	須崎市民会館	43
2 月 25 日	室戸ジオパーク広報イベント	高知イオンショッピングセンター	161
2 月 25 日	むろと 2000 本桜イベント	室戸市広域公園	1, 614



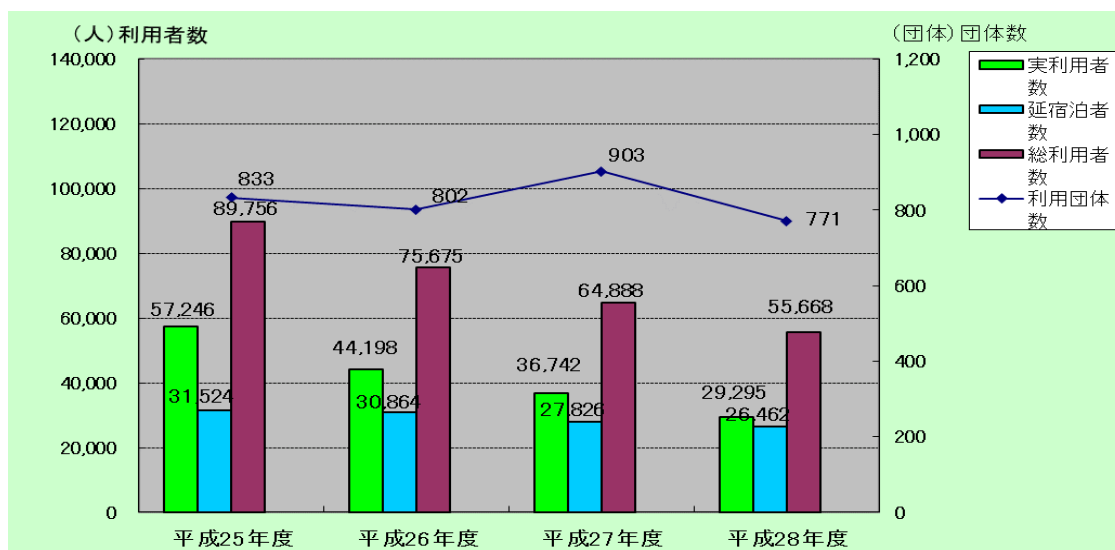
リニューアルした WEB ページ（上）

今年度の後半から導入した流木クラフトは、室戸の海と森の関係性を伝える良い教材として好評を博した（右）

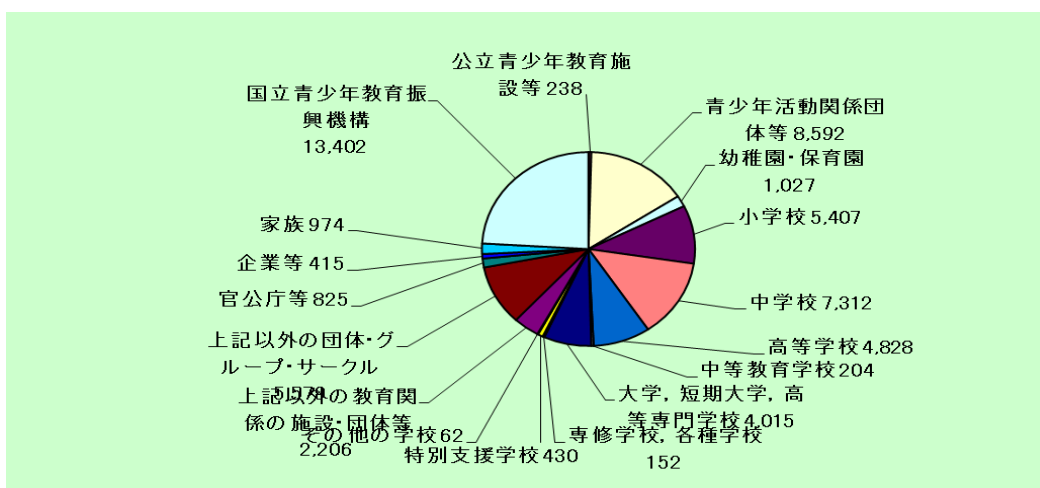


利用実績

【年度別利用状況】



【団体種別稼働数】



【月別稼働数】

